



ペレニアルライグラス草地の窒素施肥量

単播、混播草地や兼用草地など様々な利用形態が可能なペレニアルライグラス（以下PR）草地の施肥管理について、収量性と飼料品質などから総合的に判断した望ましい窒素施肥量を紹介します。（平成17年指導参考「ペレニアルライグラス採草および兼用草地の窒素施肥量の設定」より）。

天北地域におけるPRの栽培・利用状況

当地域は、多雪地帯で牧草の凍害が起こりにくく、夏期には冷涼であるため高栄養価牧草であるPRの栽培に適しています。天北農試では、これまでPRの新品種「ポコ口」育成や放牧利用などの成果を報告してきました。PRの作付面積は、宗谷管内で見ると全草地面積の約7%（3,900ha）を占めており、更なる普及には採草・兼用利用への積極的な利用拡大が望まれ、施肥管理技術の確立が必要とされています。

窒素施肥量は、利用タイプ別に異なります！

PR単播採草地

採草利用するPRの窒素施肥配分は、早春、1番草刈取後、2番草刈取後の均等施肥です。施肥量の上限は、乾物収量からみて21kg/10aと考えられます（図1）。また、飼料品質からみると、施肥量が増すと糖分の低下やNDFの増加がみられたことから、**年間21kg/10a**が適量です。

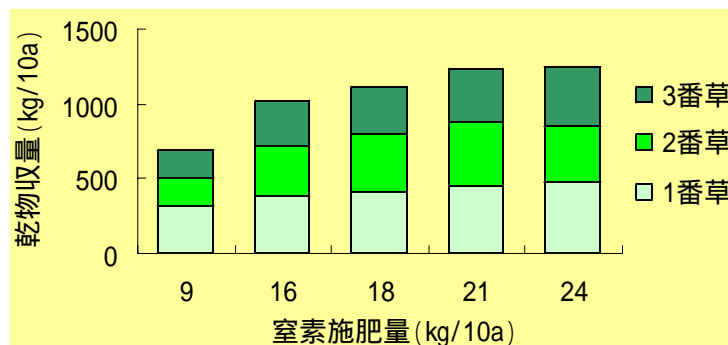
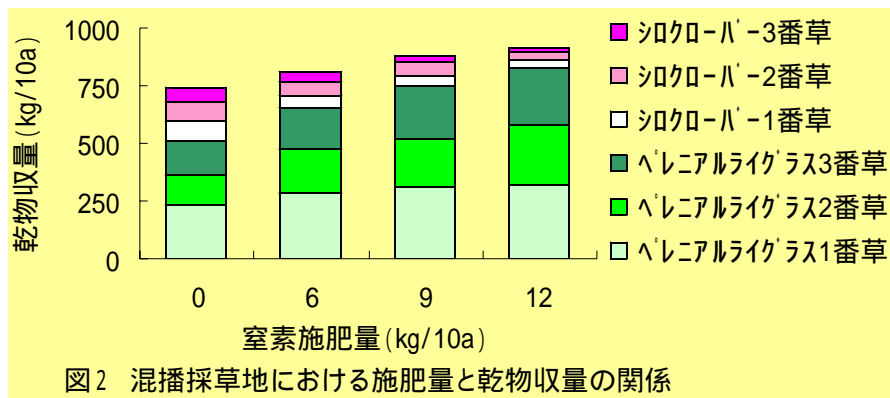


図1 単播採草地における施肥量と乾物収量の関係

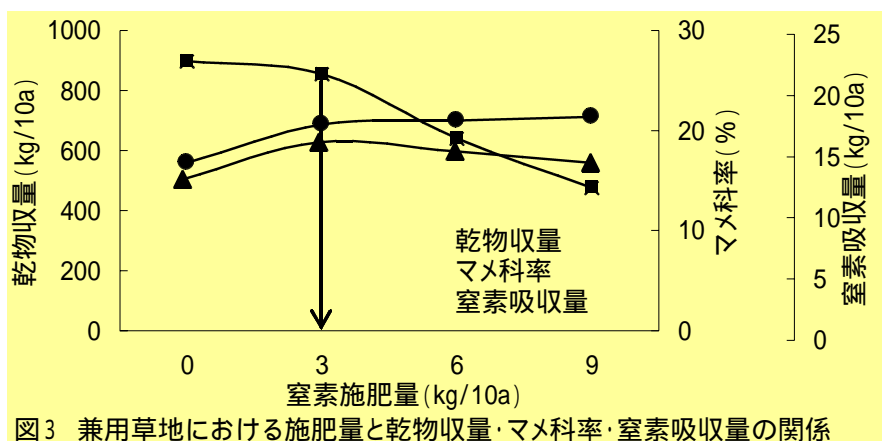
PR混播採草地

混播草地のマメ科率は30%以上が望ましいですが、天北地方の気象条件からみて、10%以上（生草重）を目標とします。混播草地では、窒素施肥量が増すと収量が増加し（図2）、飼料品質もNDFが低下し、糖分が増加する反面、12kg/10aではマメ科率の低下がみられたことから、**年間9kg/10a**が適量です。



PR兼用草地

兼用草地は1番草を出穂期に採草利用し、その後に放牧利用することが収量性や持続性の面から推奨され、施肥配分も採草期と放牧期に各1回の年間2回施肥です。窒素施肥量は、放牧利用時の収量、マメ科率の均一性や年間収量と窒素吸収量から総合的にみて、**年間3 kg/10a**が適量です(図3)。



まとめ

PR草地の利用タイプ別窒素施肥量は、表1の通りです。特に単播草地の施肥量は、オーチャードグラス(以下OG)の施肥標準を越える21kg/10aで、乾物収量で1t以上が可能です。なお、リン酸・カリウムの施肥量はOGの施肥量に準じます。

草地	マメ科率 生草重%	窒素施肥量 kg/10a	施肥分配
単播採草	-	21	均等(早春:1番草後:2番草後=1:1:1)
混播採草	10以上	9	均等(早春:1番草後:2番草後=1:1:1)
兼用	15~50	3	均等(早春:1番草後=1:1)

[問合わせ先：草地環境科 岡元英樹]

<お知らせ>

例年開催していましたが天北酪農フォーラム、道北圏酪農新技術セミナーは平成18年2月に新たな形式で開催を予定しています。